

[巻頭言]

新スーパーコンピュータ AOBA 始動

東北大学サイバーサイエンスセンター
滝沢寛之

東北大学サイバーサイエンスセンターの新スーパーコンピュータ AOBA(あおば)が、2020年10月1日より運用を開始しました。すでに本誌SENACでもいくつか紹介記事が掲載されていますが、巻頭言の場をお借りして、システム運用開始のご挨拶を一言申し上げます。

現在、スーパーコンピュータに親しみやすい愛称をつけることが一般的になっています。例えば、2020年に稼働開始した理化学研究所計算科学研究センターの「富岳」などがその典型例として挙げられます。今回、東北大学サイバーサイエンスセンターでも、初めての試みとして新スーパーコンピュータの愛称を募集し、349件ものご応募をいただきました。当初の想定を大きく上回る多数の応募をいただき、誠にありがとうございました。最終的に、愛称としてのふさわしさや親しみやすさを考慮してAOBAが選ばれました。AOBAは、応募総数の1割を超える36名の方々からご提案いただいた愛称です。その高い支持率を考えれば、多くの方にご賛同いただける親しみやすい愛称をつけることができたのではないかと思います。

言うまでもなく、AOBAという愛称は東北大学サイバーサイエンスセンターの位置する^{あおばやま}青葉山キャンパスに因んだものです。仙台城址(本丸跡)周辺は青葉山と呼ばれており、その地域にある東北大学のキャンパスが青葉山キャンパスです。他にも、仙台駅周辺から山形県との県境まで広がる仙台市青葉区など、現在では「青葉」という地名や名称は仙台のいたるところで広く使われています。しかし、この地域がいつ頃から青葉山と呼ばれるようになったのか、結論から言うとあまり詳らかではないようです。仙台市図書館所蔵の「要説 宮城の郷土史」には、福島市の信夫山



にあった青葉山寂光寺というお寺が慶長7年(1602年)に仙台城本丸近くに移され、それによってこの地に青葉山という地名が発生したという説が記述されています。このお寺の名前は青葉山寂光寺と読むのだそうで、お寺自体はしばらくした後別の場所(北山)に移されて明治には廃寺となっています。それにも関わらず、その山号に由来する地名だけは現在でも広く使われているということになり、長い歴史の中でいろいろな出来事や偶然が重なった結果として、この地域が青葉山あおばやまという地名になっていることが分かります。仙台には他にも多くの神社仏閣がありますが、その中で青葉山寂光寺の山号だけが独り歩きし、この地域全体を示すような地名にまで成長したとすれば興味深いですね。

2020年10月、スーパーコンピュータ AOBA もこの青葉山の地に誕生しました。青葉山寂光寺の名称がこの地に定着して周りに大きな影響をもたらし続けているように、スーパーコンピュータ AOBA も青葉山の地から全世界に向けて成果を発信し続ける存在にしていきたいと思っています。そのために、東北大学サイバーサイエンスセンター スーパーコンピュータ運用関係者一同で一丸となって、利用者の方々のご期待に副えるように精進してまいります。

最後に、年明け早々暗い話は書きづらいので敢えて話題の中心にはしませんでした。2020年は新型コロナウイルス感染対策に終始した年となりました。AOBAの構築にも多大な影響があったはずですが、多くの方々のご尽力のおかげで当初予定通りに運用を開始することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。依然として新型コロナウイルスの猛威は留まることを知らず、先行きの見えない日々が続きますが、2021年は少しでもよい年になることを祈念して、AOBA運用開始記念のご挨拶とさせていただきます。なお、2020年10月のスーパーコンピュータ AOBAの運用開始にあたって、多くの方々からお祝いの言葉をいただきました。コロナ禍の影響もあってシステム稼働式典を催すことはできませんでしたが、お寄せいただいたお言葉はAOBAの紹介動画とともに以下のアドレスでご覧いただけますので、ぜひご参照ください。

<https://www.cc.tohoku.ac.jp/aobadebut.html>